

伝統の合唱組曲 ロックに

阿賀町

100人以上の死者・行方不明者を出した1967年の羽越水害の悲劇を題材にし、阿賀町の三川中学校で歌い継がれている混声三部合唱組曲「阿賀野川」を同校の卒業生がロック調にアレンジし、7月にCD発売する。メンバーらは「多くの人に聴いてもらい、水害の記憶を風化させないようになりたい」と話している。

「阿賀野川」は旧三川村（現在の阿賀町）を襲った羽越水害をテーマに、自然への賛美や豪雨の恐怖、友人を失った悲しみや復興への希望などを5曲で編成した計約25分の作品。

当時の在校生が友人を失った不安や悲しみを記した卒業文集を基にして、いずれも合唱音楽界では重鎮の本和夫氏が作詞し、岩河三郎氏が曲を書き、91年に完成した。三川中では毎年秋に発表会を開いて合唱し、昨年で20回を迎えた。

ロック調に編曲したのは、同中の卒業生で、アマチュアバンド「Swallowtail Queen bee」の皆川徹さん(33)

羽越水害の悲劇 歌い継いだ三川中

OBら1年以上かけ編曲

（新潟市東区在住）。91年当時の中1で、先輩たちの合唱を聴いて音楽に目覚めたという。当時の感想文には「2、3年生を超えて、伝統を築きたい」と思いを寄せていた。

皆川さんは2010年11月、地元に戻返しをしたいという思いからロックへの編曲を開始。原曲を大きく崩さず、メロディーを忠実に編曲。ロックにすることを感動が薄れてはいけな

と、作詞した山本氏の生前を知る関係者に会いに出身地の福井県に足を運んだ。水害で友人を失った当時の在校生にも思い出を聞いて歩いたりした。

昨年11月、バンドメンバーで長岡市出身のSaeさんと、新潟市出身の演歌歌手葉月みなみさんの2人の女性ボーカルでレコーディングを開始し、今年2月にほぼ完成した。

皆川さんが一番好きな歌詞は第四曲「悲歌」の「友よ、みんなのきょうのひたむきな願いは、新しい太陽をしっかりと心に取り戻すことだ」という部分だという。「お盆で帰省した同級生に聴いてほしい」という願いから7月に発売することにした。

皆川さんは「遺族も多く、中途半端な気持ちでは作りたくなかった」と語り、収益金はすべて阿賀町に寄付する予定。

CDは7月11日から県内のCDショップなどで発売する。1260円(税込み)。問い合わせは制作実行委員会 (info@agarock.co.jp)。



合唱組曲「阿賀野川」を演奏する皆川さん(左)とメンバー(新潟市中央区)